

特別栽培米の生産支援

活動対象：北はるかもち米生産組合下川部会（6戸）

特別栽培米生産農家全戸に対し、「水稲減化学肥料栽培における有機質肥料の早期施肥技術（H25上川農業試験場）」等の実施を農家と進めた。

水稲栽培技術の実践度合いも高まり、天候にも恵まれ、過去最高の収量・品質を挙げた。

1 課題の背景

平成16年に全面積でYES！cleanに取り組み、平成28年には特別栽培米に切り替わった。

下川町の水田は、地力の低い（作土層が浅く小礫を含む）ほ場が多く、安定した収量・品質の確保が難しい。有機質肥料の早期施肥技術、育苗及び本田栽培技術の見直しが必要である。また、最近問題となっている「もち米の胴割粒発生の発生防止」のために、適期収穫及び適正な乾燥調製の励行も必要である。

2 活動の経過

部会及び農協と協議して、現地研修会（2回）、適期刈取玄米判定会、肥料農薬研修会を行った。戸別巡回では、生育とほ場状態（土壌還元、中干し・登熟期間の土壌水分）を農家と共に観察して水稲栽培技術共有項目の実施を進めた。

また、メタン発酵消化液施用展示ほを設置し、研修会を実施した。

【水稲栽培技術共有項目】

項目	内容
1	育苗 催芽斉一
2	育苗 早期異常出穂防止育苗期間30日
3	ケイ酸資材の施用
4	有機質肥料の早期施肥 側条施肥の実施
5	有機質肥料の早期施肥 有機質肥料混和7日後入水
6	発生予測に基づく防除
7	本田の水管理
8	本田の乾田化



現地研修会



施用状況を確認



メタン発酵消化液施用展示ほで研修会



適期刈取玄米判定会

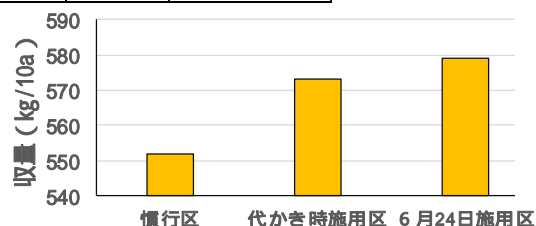


展示ほ場の出来具合を確認

3 活動の成果

具体的推進事項	目標事項	現況	目標	実績	実績/目標
水稲栽培技術共有項目の実施	8項目で5項目達成農家戸数	0戸	3戸	4戸	133%

各種研修会への出席率は100%で、家族全員の出席もあり意見交換が盛んに行われた。各技術の励行により、胴割粒の発生はなく過去最高の収量・品質を挙げた。肥料費削減のため、メタン発酵消化液の施用実施農家が2戸になり、関心が高まった。



4 今後の課題

個々の栽培環境に見合う技術の実施に向けて聞き取りと記録を行い、次年度も継続支援を行う。